

令和4年度 学校評価結果報告書

学校法人 大阪聖マリア学園
関目聖マリア幼稚園

当園ではこの度、令和4年度の幼稚園学校評価として、保護者アンケート及び、教職員自己評価・学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直す非常にいい機会となりました。

今年度の保護者アンケートの結果及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

目指す園児像

心身ともに明るく健康な子ども
何事にも興味を持ち、創造性豊かな子ども
誰とでも遊べる思いやりのある子ども
正しい考えで行動できる子ども

具体的な教育目標

- ① 基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培います。
- ② 人を尊重し、助け合い、すすんで他の人の幸せのために奉仕する生き方を学びます。
- ③ 自然などと親しみ、驚きや発見などの感動を大切に、豊かな心情や思考力の芽生えを培います。
- ④ 言葉を交わす楽しさを知り、喜んで話したり聞いたりする態度を養います。
- ⑤ ささまざまな体験を通して、豊かな感性を育て、創造性に富んだ生活を営む基礎を培います。
- ⑥ 体育・音楽・造形に力を入れ、楽しく活動しながら自己表現の大切さを学びます。

II. 今年度の重点目標

昨年度の学校評価で、抽出された「課題」の解決をするとともに、関目聖マリア幼稚園をより良い幼稚園にしていく為に、現状考えられる課題を年初に抽出し、それらの課題の達成に向けて年間で計画を立てて取り組んでいく。

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み内容
1	(教育内容) 理念の浸透・目標の推進	「神様のおはなし」や園長先生のお話等によるインプットと、それを実際の保育の場面で生かすアウトプットのための理念の浸透や目標への推進を目指す。	B 園長先生のお話や絵本で伝えるなど、週に一度はイエス様に関する内容に触れる機会を作った。その内容を後日、保育士がかみ砕いて伝えることや共に考える時間を共有することで、こちらから発信しなくても子どもたちから興味を持って積極的に話をするという場面が見受けられた。
2	(教職員の質の向上) 組織体制の構築	役割分担や権限移譲によって各職員のリーダーシップを高め、組織として保育の質の向上と業務の効率化を目指す。	A 責任や役割を明確にすることによって、行事や製作など、担当がリーダーシップをとって進められるよう、進み具合の確認をしたり、お互いをフォローし合うことで連携しながら計画的に進めることができた。担当の変更による引継ぎを丁寧に行い、次年度以降の活動にもつながるように取り組む。
3	(保育環境の整備) 保育環境の整備	引き続き「愛される」ことの心地良さを子どもたちが感じ、その愛を基盤に安心して行動を起こし、様々な活動にチャレンジできる環境を整える。	B 日々の保育から子ども達との関わり方を見つめなおしたり、周囲の先生の取り組み等、良いところを参考にしながら「集団」の中で「個」を大切に保育に向かっていけるように思う。そのためにはひとりひとりの個性を大事にし、認めながら受け止めていく努力が必要である。

令和4年度 学校評価結果報告書

学校法人 大阪聖マリア学園
関目聖マリア幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み内容
4	(情報発信) 保護者や地域への情報発信	保護者への動画配信の頻度を高めて保育の見える化によって安心を提供する。地域に対しても関係性を強めることができる取組みを実施する。	A レーザーキッズでの動画配信や、ドキュメンテーションを用いて保護者や子ども達に対しても情報を発信した。特に行事前はより盛んに行った。また、バスの位置情報を保護者が把握できるようにしたことが好評だった。行事を中心とした情報発信となったので、日常の保育なども配信できるように取り組んでいく。
5	(安全管理体制の強化) 安全管理体制の強化	コロナウイルスへの対策や危険個所の確認、整理整頓を園のルールと個人の意識を高める部分で強化し、安心安全な園体制を整える。	B パーティションやマスクケースを活用し、相手との距離や事故を守る環境を整えた。また、玩具の破損がないか等の定期的の確認や、備品や薬品の置き場所を整頓し、安全管理体制を整えることができた。 コロナの終息も視野に入れて、今後の対策を検討していく。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	理念の浸透・目標の推進	「神様のお話」などを、月の宗教カリキュラムに基づいた形でインプットを行うことで、個々が保育にアウトプットするものに統一感を持たせる。
2	組織体制の構築	職務について理解し、各々が主体的に取り組み、全体に発信できるよう研鑽していく。
3	環境を活かした保育の整備	今ある環境をよく知ると共に、自ら子どもにとっての最善の環境を構築したり、探究したりする。
4	情報発信	レーザーキッズの機能をより用いて情報発信を充実させる。 また行事や園庭開放などでアンケートを実施し、保護者や地域の方の意見も取り入れていく。
5	安全管理体制の強化	危機管理などのシュミレーション園内研修を取り入れ、対応の仕方など、個々の意識を高めていく。

V. 学校関係者の評価

自己評価・保護者アンケートを基に関係者評価を実施

- ・ 自己評価についての取り組み・達成状況は適切であると考えます。
特に昨年度のそれぞれの項目で課題であった内容について、具体的な改善に取り組む事で状況が良い方向に向かっていることが分かり、高い評価ができました。
今後取り組みべき課題として、今年度達成された内容を基盤に、さらなる質の向上を目指されており、着実な成長が期待されます。
- ・ 今の時代にあった取り組みをされていると感心しました。
レーザーキッズやドキュメンテーションの導入はとても良いと感じました。その反面で動画配信にかかる時間と子ども達に向き合う時間との限られた中での効率化が課題になると思います。
- ・ 感染症対策につきまして感心しております。罹患した園児に対する当園基準も明確で、保護者に対する配慮も十分に行われていると思います。十分な感染予防は保護者の安心にもつながります。今後ともよろしくお願いいたします。